

## 率先実行計画に係る取組に対する評価及び今後の課題

### 総 理 府

#### 取組に対する評価

- ・ 用紙類の使用量の削減について、かなり前進がみられた。
- ・ 前年度に引き続き、さらに積極的に低公害車を導入した。
- ・ 再生材を活用した物品、省エネ型機器等を優先的に調達した。
- ・ なお、廃棄物の量が大幅に増加したのは事務所移転の準備作業によるものと思われる。

#### 今後の課題

- ・ 目標年度である平成12年度においては、できるかぎり数値目標が達成できるよう、引き続き積極的に取り組む。

## 警察庁

### 取組に対する評価

- ・ 文具等の購入に際して、リサイクル商品を導入している。
- ・ 昼休みの消灯の推進を庁内放送で行っている。

### 今後の課題

- ・ 平成12年度からコピー用紙にあっては古紙混合率100%を使用している。
- ・ 今年度、新中央合同庁舎第2号館への移転を控えており、移転後も引き続き、省エネならびに環境に優しい商品の導入使用を職員に呼びかけ、理解と協力を図りたい。

## 公害等調整委員会

### 取組に対する評価

- ・ 物品購入等の際等、再生紙、再生品を使用するよう徹底を図った。
- ・ 引き続き共用自転車を導入した。

### 今後の課題

- ・ 公用車の次期交換時（平成14年度以降）において、低公害車、低環境負荷型車の導入を検討する。

## 総務庁

### 取組に対する評価

- ・ 民間企業の環境保護意識の高まりに伴い、環境保全型商品情報の入手も容易となり、調達実績も向上した。

### 今後の課題

- ・ 「グリーン購入法」施行に向けた環境保全意識の更なる向上。

## 北海道開発庁

### 取組に対する評価

- ・ 文具類について、再生材料から作られるリサイクル製品を購入。

### 今後の課題

- ・ 使用済み用紙の裏面使用、使用済み封筒の再利用をより一層促進し、ペーパーレス化に努める。

## 防 衛 庁

### 取組に対する評価

- ・ 用紙類、バージンパルプ及び上水の使用量は、12年度末時点における政府目標を達成。
- ・ 特にバージンパルプの使用量については、対7年度比34%、用紙類に占めるバージンパルプの比率は24%となり、再生紙の利用に努力。
- ・ 低公害車の導入については、ハイブリッドカーを11台購入し、導入比率を2%とし、率先実行計画の取組として広く周知。
- ・ 電力使用量については、施設整備の進捗等が対前年度比増の一因。
- ・ 廃棄物、可燃ゴミについては不要品の転活用やリサイクルに努めたものの、庁舎移転に備え文書等処分を行ったこと等が対前年度比増の主要な要因。

### 今後の課題

- ・ 引き続き率先実行計画の目標値に向けて、可能な限り努力を継続。

## 経 済 企 画 庁

### 取組に対する評価

- ・ 率先実行計画に係る取組みについては、着実に実施が進んでいる。

### 今後の課題

- ・ 引き続き積極的に取り組んで参りたい。

## 科学技術庁

### 取組に対する評価

- ・ 低公害車 1 台の導入を行った。
- ・ 両面コピーの活用を促進した。
- ・ ノーカーダーに積極的に参加した。

### 今後の課題

- ・ 率先実行計画のさらなる周知徹底を図る。



## 環 境 庁

### 取組に対する評価

- 1 環境庁における率先実行計画の実施状況を、政府の目標数値との関係でみると、取組の成果がみられた項目もあるものの、初年度の平成7年度に比べ後退しているものや、平成10年度まで順調に推移していたが平成11年度は後退してしまったものなど、順調に取組が進んでいない項目も少なくなく、より一層強力な取組の推進が必要である。
- 2 機関別に見ると、「本省庁」では低公害車の導入と事務所の単位面積当たりの電気使用量については平成11年度に改善がみられたが、平成10年度まで順調に推移していた項目のうち平成11年度は後退してしまったものも少なくない。また、国立環境研究所等の「地方支分部局」でも多くの項目で平成11年度にやや後退してしまっている。
- 3 率先実行計画において目標が定められている項目のうち、環境庁において今後、特に取組が必要となるものは、以下のとおりである。
  - ・低公害車については、平成11年度は、総括政務次官車への天然ガス自動車の導入等により、計6台の導入を行った結果、保有総数は15台、通常の行政事務の用に供する公用車全体に占める割合は11.5%となり、政府の目標数値(10%)は上回っている。  
しかしながら、今後も、平成10年度に策定した導入計画に沿って、積極的に導入する必要がある。
  - ・事務所の単位面積当たりの電気使用量については、平成7年度比で1%減少であり、また、事務所の単位面積当たりの上水使用量は、現状比でほぼ横這い状態となっているが、いずれも率先実行計画に定める政府の目標(現状比で概ね90%以下)を下回っている。これは、昼休みの一斉消灯等の比較的容易に実施できる取組が未だ一部の部署では徹底されていないという取組の不徹底さが一つの原因となっているのではないかと考えられる。
  - ・公用車で使用する燃料の量については、ガソリンが平成9年度からほぼ同数値で推移し、現状比で24.6%増加と目標数値と乖離しており、引き続き、公用車の利用形態、運転方法等の改善等の検討の必要がある。
  - ・各事務所から排出される廃棄物の量及び可燃ごみの量については、平成10年度までは減少傾向であったが、平成11年度は平成7年度の数値にもどっている。これは一部の施設において不要品等を一斉廃棄したことが大きく作用したものであることから、本年度は改善に向かうことが予想される。

### 今後の課題

- 1 環境庁としては率先実行計画の推進に係る政府の事務局を務める立場から、環境庁の実績数値が、政府全体に係る各目標数値を達成できるように、より一層積極的・計画的に取組を推進していく必要がある。
- 2 また、実績数値の把握については、今後は、定期的な把握が可能な項目については、極力、部局単位等適切な単位により日ごろからその把握に努め、きめ細かい進行管理をしていく必要がある。
- 3 さらに、率先実行計画など環境保全に向けた取組を適切に進めていくためには、職員一人一人が、より積極的に取り組む必要があることを再認識し、理解を一層深めてもらうとともに、自主的な取組を促す観点から、環境保全に関する研修・情報提供等をより一層充実・強化していく必要がある。
- 4 なお、個別事項に係る取組のうち、現時点において成果が思わしくない「電気使用量の削減」「上水使用量の削減」「廃棄物の量の削減」「廃棄物中の可燃ごみの量」の各項目について、職員一人一人が特に意識して取り組むとともに、「低公害車の導入」「公用車で使用する燃料(ガソリン)の量」の項目も合わせて全庁を挙げて積極的、計画的に取組を推進するものとする。  
また、既に目標数値を上回っているものについても、さらに大きく上回ることができるよう引き続き努めるものとする。

## 沖 縄 開 発 庁

### 取組に対する評価

- ・ 物品の購入におけるリサイクル商品の導入を推進。

### 今後の課題

- ・ 地方支分部局におけるコピー用紙の古紙利用の促進。

## 国土庁

### 取組に対する評価

国土庁においては、率先実行計画を着実に実施するため、平成8年5月に「環境基本計画率先実行計画推進のための当面の取り組みについて」を策定し、当面重点的に取り組むべき具体的事項を明確にした上で、その実施に努めるとともに、特に、平成9年4月に「国土庁内コピー削減行動計画」を定める等、環境負荷の軽減に取り組んでいる。

本年度においては、公用車で使用するガソリンの量について対前年度比1.5%減、廃棄物量について対前年度比8.7%減となるなど、一定の成果を上げている。

また、低公害車の開発状況を踏まえ、低公害車の導入について検討を行った結果、平成11年度において低公害車を1台導入した。

全体としては、取組目標の達成に向け一層の努力が必要であると考えている。

### 今後の課題

今後の課題としては、さらなる環境負荷の軽減に向け、目標の具体化、目標時期・責任体制の明確化を図る必要があると考えている。

## 法 務 省

### 取組に対する評価

全体として、職員の自覚、職場での取組体制等が確立されつつあり、一定の成果が得られていると評価できるが、いまだ取組が十分でなかったり、未実施の項目も引き続き今後の課題として存在しており、本年度において一層の推進・点検が必要である。

#### (継続・前進した点)

- ・ コピー用紙は全て再生紙を使用した。
- ・ 文具類について、リサイクル製品を使用した。
- ・ 用紙類の使用量の削減(両面印刷、両面コピーの徹底)
- ・ 備品などの更新及び新規購入に当たって、より省エネ性の高いものを購入するなどして、環境負荷の軽減を考えた取組を行った。
- ・ ゴミの削減(分別回収の推進)
- ・ 比較的長期間使用できるように、詰め替え可能な文具類及び洗剤を購入した。
- ・ コピー機等のトナーカートリッジのリサイクルを推進した。
- ・ 自転車の利用を積極的に推進し、官用車の利用を抑えた(「ノーカーデー」への積極的な協力)。
- ・ 執務に支障の来さない範囲における室内消灯の実施

#### (前進しなかった点)

- ・ 資源の有効活用については、両面コピーや裏面使用等、可能な限り行っているが、執務の性質上国会等において使用する資料等が多いため、体裁の面から上記方法での使用が困難である場合が多い。

### 今後の課題

今後より一層取り組んでいきたい事項

- ・ ゴミ排出量の抑制。
- ・ 簡易包装品の購入の推進。
- ・ ペーパーレス化の促進(数量管理の実施、OA機器の活用、両面印刷)。
- ・ リサイクル製品の積極的な購入及び使用の継続。
- ・ 物品の購入に当たって、環境への負荷が少ない商品を選択するため、種々の情報の把握に努める。
- ・ 各種講習会、研修会の受講、参加を積極的に推進し、環境保全に向けた各人の認識、自覚の高揚を図る。
- ・ 両面コピーや昼の消灯、一斉定時退庁日の会議中止及び退庁等は、対外的な理解と協力を得ることができれば実行困難ではないと思われるので、全省的に趣旨の周知徹底を図るとともに、外部への理解を深めていく。

## 外務省

### 取組に対する評価

- ・ 廃棄文書類は、省内で焼却処理してきたが、再利用可能な大型シュレッダーの導入により、廃棄文書類の98%をリサイクルできるようにした。
- ・ 公用車買い替えの際に1台を低公害車（ハイブリッド車）とした。
- ・ 「霞が関地域の本省庁等における自転車の導入・利用」に参加のため、電動アシスト自転車（3台）を新規に導入した。

### 今後の課題

- ・ 廃棄物の分別体制のより一層の充実を図る。
- ・ 低公害車の追加導入。
- ・ 自転車の積極的利用の促進。

## 大 蔵 省

### 取組に対する評価

- ・ 財やサービスの購入・使用に当たっての環境保全への配慮については、各種施策について前年度に引き続き積極的な取組に努めた。
- ・ 建築物の建築、管理等に当たっての環境保全への配慮については、本項目は、庁舎再配置等の中で施策を推進していかなければならないものが多いことから、当省の努力は自ら限界があるが、対応可能な施策については積極的な取組に努めた。
- ・ その他行政事務に当たっての環境保全への配慮については、各種施策について前年度に引き続き積極的な取組に努めた。

### 今後の課題

- ・ 省エネ商品は環境によいが、割高な物が多く経済的ではない場合があるが、予算執行上可能な限り、引き続き環境に負荷の少ない商品を購入等するよう努めたい。
- ・ 事務量の増加傾向にあって、事務室の昼休み消灯、一斉定時退庁日の実施は困難な事ではあるが、職員に趣旨の周知を図ることにより、事務室の省エネに努める。

## 文 部 省

### 取組に対する評価

- ・ 保有する公用車のうち通常の行政の用に供するものに占める低公害車の割合は、車種が限定されている等の理由から、十分普及しているとは言えないが、ハイブリッド自動車については、価格や性能面等の問題も解決しつつあり、可能な機関において導入することにより台数が増加した。
- ・ 官用車使用における燃料の量は、官用車利用の見直しを図った結果、可能な限りの相乗りの励行、また、官用車利用を片道としたことで、現地での待機中アイドリングによる消費量分などが節約できたものと思われる。
- ・ エネルギー供給施設等で使用する燃料は、使用燃料の変更もあり、一概にその増減を評価することは困難である。なお、随時、環境への負荷が少ない施設へ転換している。
- ・ 事務所の単位面積当たりの上水使用量は、自動水洗装置、自動洗浄装置、流水音発生装置（フラッシュバルブ）の設置等により減少している。
- ・ 各大学、機関ともLAN整備を進め、単独で稼働していたプリンタをネットワーク上に共有し、効率的な使用形態に改めたり、蛍光灯についても本数を間引いたりした。また、トイレについても、自動点灯するよう装置を付け替え、無駄な照明のないよう改善したため、事務所の単位面積当たりの電気使用量に減少が見られた。

### 今後の課題

- ・ 購入する物品については、予算や会計法上の制約の下で可能な限り環境の負荷の少ない物品を購入するとともに、不要となった物については可能な限りリサイクルを行うよう努める。

## 厚生省

### 取組に対する評価

- ・ 公用車燃料の使用量を平成10年度と比較すると、ガソリン、軽油が減少している一方、天然ガスの増加が際立っている。これは、天然ガス自動車等の低公害車の導入が進んだことによるものである。
- ・ 通常の行政事務の用に供する公用車等の種別では、平成11年度に新たに保有を開始した50台のうち、実に30%に相当する15台が低公害車等であり、低公害車の導入計画が浸透していることがうかがえる。
- ・ 単位面積当たりの電気使用量及び単位面積当たりの上水使用量が平成10年度と比較して減少しており、各事務所等において省資源・省エネルギーの意識が浸透しつつあることがうかがえる。

### 今後の課題

- ・ 低公害車については、導入計画に基づき、1割導入を目指し、引き続き導入を促進する。
- ・ エネルギー・電気使用量については、できるかぎり節電・省エネを行う等、減量化へ向けた取組を推進する。
- ・ 廃棄物については、電子化の推進による紙資源の節約や、分別をより一層推進する等により、廃棄物の減量化及び適正処理に向けた取組を推進する。
- ・ 率先実行計画のより多くの職員への周知を図る。



## 農 林 水 産 省

### 取組に対する評価

- ・ 再生紙の使用に関しては、ほぼ100%達成。
- ・ ゴミの分別はよくできている。
- ・ 節約及び簡素化で対応できる部分は、対応できていると思う。

### 今後の課題

- ・ LAN、電子メール等の活用は進んでいるが、ペーパーレス化が進まない（逆に紙の使用量は増加している）。
- ・ リサイクル製品の更なる調達。
- ・ 根本的なゴミ減らし、ゴミの出ない製品の調達。

## 通 商 産 業 省

### 取組に対する評価

- ・ 職員の「環境」「リサイクル」に対する意識が相当程度高くなっている。
- ・ 冷房の設定温度を28度に設定する、パソコンの節電モードを取り付けるなど電気使用量削減の対策をとっているが、OA機器の多い部屋は暑く、逆に幹部室は冷房が利きすぎるといった不満の声がある。
- ・ 依然、超過勤務に伴うエネルギーの使用が多い。
- ・ 夏季期間は軽装の励行を行っている。
- ・ 近隣への移動には、極力自転車等を利用し、公用車の利用の効率化を図っている。
- ・ 両面コピーや裏面の再利用が実践されている。
- ・ 古紙、空き缶、プラスチック等の分別収集が定着している。

### 今後の課題

- ・ ごみの中で、様々な素材が合わさっている物（ボールペン、フロッピーディスク）の分別まで徹底すべきである。
- ・ 来庁者に対する自動車利用の抑制は、来庁者が各社の営業の者である場合は当該社の都合もあり難しいが、できる限り呼びかける。
- ・ リサイクル紙の一層の使用率の向上と、古紙、破砕紙、リサイクル紙の分別を徹底する。
- ・ 無用な残業を無くし、電気の使用量を削減する。業務を効率化する。
- ・ 熱発生が少ないOA機器への順次切り換えが必要である。
- ・ ISO14001の取得への是非について検討すべきではないか。
- ・ 未実施部分については、設備等による要因が大きいため、今後の更新計画等における検討が必要である。
- ・ 財、サービス購入時から環境保全意識の高揚を図る。
- ・ 個別具体的事項についての明確な目標の設定（コスト、ゴミ排出量等）が重要である。

## 運 輸 省

### 取組に対する評価

- ・ 「用紙類中に初めて使用する木材パルプの使用量」は、再生紙を使用する傾向が高まったこと等により減少傾向にある。
- ・ 本省において「ノーカーデー」の実施「共用自転車の導入」等により、「公用車で使用する燃料」が減少傾向にある。
- ・ 低公害車について、平成12年度までの導入計画を策定。

### 今後の課題

- ・ 平成11年度現在で目標を達成しているものについては、更に目標を上回ることが出来るよう、また、目標を達成していないものについては、目標の達成に向け、率先実行計画等に基づく取組を引き続き積極的に取り組んで参りたい。

## 郵 政 省

### 取組に対する評価

郵政省では「環境基本計画」及び「率先実行計画」を積極的に推進するため、平成9年3月13日、「郵政省環境基本計画」を決定。

平成12年3月27日には、「郵政省環境基本計画」の第3回フォローアップを実施し、環境負荷の低減に向けた取組の着実な実施が図られたところ。

### 今後の課題

さらに、職員一人一人への周知徹底も含めた取組の積極化を図る。

## 労働省

### 取組に対する評価

- ・ 用紙類の使用量の削減は順調である。
- ・ 物品購入の際、省エネの機能付のものを積極的に購入している。

### 今後の課題

- ・ 低公害車の導入を更に高めること。
- ・ ゴミの量の削減に努めること。
- ・ 用紙類の使用量は削減されたが、再生紙の割合が減少しているなのでその割合を高めること。

## 建設省

### 取組に対する評価

- ・ 「用紙類中に初めて使用する木材パルプの使用量」は、再生紙を使用する意識が高まったこと、古紙利用率が高い製品を使うようになったこと等により大幅に減少した。
- ・ 低公害車は、導入意識は向上したものの、使用用途等に適した車種が少なく、未だ台数は低い。
- ・ 文具類は、再生材料製品を使用するよう努めているところ。

### 今後の課題

- ・ 「用紙類の使用量」は、普及したOA機器の有効活用等による減量を図ること。
- ・ 廃棄物量は増加傾向にあり、循環型社会の形成に向けて、リサイクル意識、ごみを出さない意識を高め、処分量を減量させる必要がある。

## 自治省

### 取組に対する評価

- ・ 昨年度に比べ新たに取り組んだ項目はないが、昨年度と同様に率先実行計画の目標の実現に努力した。(本省)
- ・ 一昨年度、公用車をガソリン車から天然ガス車に買い換え、引き続き大気汚染防止に配慮。(消防庁)
- ・ 昨年度に引き続き、100%再生紙の使用等による再生品使用の励行及び節電の徹底。(消防庁)

### 今後の課題

- ・ 率先実行計画の数量的目標のうち、平成11年度現在で目標に達していないものの平成12年度における目標の達成を含め、率先実行計画の実施に引き続き努力する。(本省、消防庁)

## 内閣法制局

### 取組に対する評価

- ・ 特になし。

### 今後の課題

- ・ 特になし。



## 人 事 院

### 取組に対する評価

- ・ 電気機械器具等の購入については、昨年の報告と同様に経済性や環境面に配慮したものを導入するようにしており評価できるものとする。
- ・ また、再生紙についても、新規業者の参入等により価格面も低額化しており、微増ではあるが上昇しているため引き続き努力していきたい。

### 今後の課題

- ・ 昨年の本調査の報告においては、天然ガス車の予算要求が出されたが残念ながら措置まで至らなかったものの、ハイブリッドカーによる予算は認められ、平成12年度においては2台の購入を予定しているので、今後も導入の方向で検討していきたい。

## 公正取引委員会

### 取組に対する評価

1. 紙の使用量の抑制、使用済み用紙の再利用（使用済みの用紙やミスプリント等の用紙の裏面を活用）等を積極的に図ること等により、事務所から排出される廃棄物の量が前年度に比べ大幅に削減できた。
2. 再生紙の利用について、コピー紙等の再生紙を利用しているものについては可能な限り古紙利用率の高いものを導入するとともに、再生紙の使用可能なものについては再生紙への切替を順次行った。
3. コピー用紙はグリーンマークとエコマーク入りの再生紙を使用し、その他封筒、紙製フラットファイル、インデックス紙、付箋紙、板目紙、綴込表等、一括購入している紙製品については、特段の事情がない限り再生紙を使用した製品を購入した。
4. 推奨リストを参考としハイブリット車5台、低環境負荷型自動車（申請中）2台を購入し、低公害車等の割合を36.8%とした。
5. 共用自転車を導入し、近距離の移動については極力これを利用することにより、公用車の利用を抑制した。
6. 庶務主任会議等の各種会議の場を捉え、環境保全（節水・節電、リサイクル、ごみ減量、残業縮減など）に関する職員の意識啓発を促進した。

### 今後の課題

1. パソコンが全職員へ整備されたことに伴うさらなるペーパーレス化の促進を図る。
2. 電気使用量の削減に関し、省エネルギーに配慮した特定機器の導入等を進めるとともに、直近階への移動の際の階段利用、不要時・不要箇所の消灯等の個々の取組の徹底を引き続き行う。
3. 再生紙及び再生品の使用に引き続き努める。
4. リサイクル資源となり得る物を職員に周知し、ゴミの減量化を図る。
5. 分別回収ボックスを執務室内に適切に配置するとともに、個人用ごみ箱を順次減らしていく。
6. 率先実行計画の個々の取組を徹底するため、職員に対する環境保全に関する研修・情報提供をより一層強化する。
7. その他、率先実行計画等に基づく取組を引き続き積極的に推進する。

## 宮内庁

### 取組に対する評価

- ・ 環境負荷の少ない製品、原材料の選択を積極的に進め、併せて環境負荷の削減のため資源利用の節約、自然環境の保全に努め、リサイクルの推進等を行った。
- ・ また、低公害車（ハイブリッド車）を導入した。

### 今後の課題

- ・ 引き続き低公害車の保有割合を高めるよう取り組んでいきたい。

## 会計検査院

### 取組に対する評価

- ・ 使い捨て飲料容器の適正な回収ルートを設けた。
- ・ パソコン等の買換えに当たっては、よりエネルギー消費の少ないものを購入するよう努めた。
- ・ ハイブリッド車1台を導入した。

### 今後の課題

- ・ 物品の購入に当たっては、一部リサイクル製品を取り入れているが、さらなる利用拡大を図りたい。

## 金融再生委員会

### 取組に対する評価

- ・ 取組みは特に設けていない。

### 今後の課題

- ・ 早期に取組むべき目標を設定する。